



# ドルが紙くずになった時に 資産を守る方法

松下 誠



こんにちは、松下 誠です。私はこれまでセミナーを通じて 5,000 名以上の個人投資家の方と出会い、投資を伝えてきました。その中で、最近多くの方から「ドルが紙くずになるという話がありますが、どう思いますか。またどうすればいいのでしょうか。」という質問をいただきます。

この質問は、私にとっては何の疑問もないものですが、多くの方は、意外にこのことを気にかけて、思い悩んでいるようです。このレポートでは、その視点からリスク管理について考え、紹介していきます。

## 「ドルが紙くずになったらどうすればいいのか？」

まずこの疑問の奥には、そのような想像もつかない事態に対する不安や恐怖が隠されています。また 2008 年に起こった、100 年に一度と言われる世界金融不安の世界経済の激変を目の当たりにし、識者やエコノミストと呼ばれる人達が書籍等で私たちに知りえない情報を紹介し、その事態が今にも起こるかのようになると、誰しも言いようのない不安を覚えるものです。

しかし、ここで最も大切なことは、**事実は何か、そして直接的に自分に関係する事態は何かを明確にすること**です。私たちは一般的に、「先の見えない、正体を明らかにできないもの」に対して最も不安や恐怖を覚えます。言わば、人間の不安や恐怖は想像力や心が作り出すものが最も大きいのです。このことを理解すると、最初にやるべきステップが分かります。

つまり、「ドルが紙くずになるとは、具体的にどういうことか？」を考えうる限り明確にしていくのです。そうやって、明確にできたものには、準備や対処ができるようになり、そのことで不安と恐怖は徐々に色あせていきます。

それでは、ドルが紙くずになるとは、どういうことなのかを具体的に考えてみましょう。

1. 米ドルが各国通貨に対して断続的に価値（価格）を下げる
2. 北米経済圏構想が現実化し、現在のユーロのような通貨が北米に登場し、米ドルがなくなる
3. 米国が債務不履行に陥り、文字通り米ドルが紙くずになる
4. 再び 2008 年のような世界金融不安が起こる

私に考えられるケースとしては、以上の 4 つくらいです。もしここに挙げられていない事例があるとしても、それほど上記 4 つのケースと大きな違いはないと思います。ということは、「ドルが紙くずになった時に資産を守る方法」とは、あなたが不安に思うことが上記のいずれのケースなのか

を明確にし、その対処を知ることに他なりません。順にそれぞれの事態を考え、対処法を考えて行きましょう。

## 1. 米ドルが各国通貨に対して断続的に価値（価格）を下げる

このケースに対しては、それほど複雑な対処は必要ありません。それどころか、歴史的に見て、既に米ドルは各国通貨に対して年々価値を下げているので、それほど驚くような事態ではありません。

参考までにユーロにおける米ドルの動きを確認します。



ユーロという通貨は 2002 年くらいから流通が開始された通貨ですが、流通開始から一貫してユーロの価値が米ドルに対して上昇しています。つまり米ドルの価値はユーロに対して下がり続けています。次に対円で米ドルの動きを見てみます。



上図 2 を見ても歴史的に米ドルの価値は、対円において下落しています。つまり世界的に米ドルの価値は下がり続けていることに間違いはありません。ここで更に NY 商品先物市場における金の先物価格を月足で確認してみます。



商品先物市場における金価格は史上最高値を更新しており、金の価値が上昇を続けていることが分かります。これは裏を返せば、米ドルの価値が金に対して下落していることを意味します。

こうして見ると、既に米ドルの価値は歴史的に下落しており、それは長期のトレンドと見ることができます。そのことから考えると、米ドルの価値の下落に対して準備をすれば、米ドルの売りポジションを持つことによってリスクに備えることができます。

つまり EUR/USD の買い、もしくは USD/JPY の売りというトレードです。1つ1つのトレードタイミングは、私たちがいつも確認する日足チャートで計ることができますので、長期の米ドル安を見据えたトレードを検討することで、このリスクや不安を除くことが可能になります。

## 2. 北米経済圏構想が現実化し、現在のユーロのような通貨が北米に登場し、米ドルがなくなる

このケースに関しては、実際にどのようなことが起こるのかを想定することは非常に難しいと思います。ただ、1999年～2002年にヨーロッパ経済圏という制度が導入されユーロが導入された前後の通貨価格の推移を見ると、特別な混乱が生じたとは考えられず、北米で同じ構想が実現したとしても大きな混乱はないのではないのでしょうか。

## 3. 米国が債務不履行に陥り、文字通り米ドルが紙くずになる

おそらく、現在色々な情報媒体で語られる「ドルのリスク」というのは、このケースではないかと思います。これは2010年現在のギリシャで起こっている問題と同じです(規模は全く異なりますが)。

この問題を考えるのは容易ではありません。なぜなら債務不履行(デフォルト)とは債務超過に伴い債務返済が不可能になる、つまり国として借金を返済できない状態になることを意味します。つまり米国は債務(米国債)の返済に対応することができず、米国債および米ドルの価格は暴落する可能性があります。

現在世界が米ドルを基軸通貨(取引を行なう上での中心的な通貨)として各市場の取引を行なっています。また世界中の国が、米ドルで外貨準備を行なっており、米国債も中国、日本、英国の順に世界各国が保有しており、いわば**世界中で米国と米ドルを支えているような経済構造**になっています。

この状況下において、**米国の債務不履行が起これば、世界の金融システムや経済活動が大混乱**することは必至であり、それに対して一個人として準備できることは非常に限定されたものになるでしょう。

一般的には**資産・資金を分散して保有**することが1つの対策として考えられます。つまりビジネス、ペーパーアセット（紙の資産）、不動産、そして物です。ビジネスとは、自分自身で物とお金の流れを作り出すシステムでもあり、また株式への投資によるビジネスへの投資も入ると考えます。

またペーパーアセットには、前項で出てきた株式の他に、**米国債以外の債券や他国通貨**というものも含まれると思います。

不動産は言うまでもなく、**土地や賃貸用の物件**等です。

最後に物ですが、これは単純に**金の現物**ということになるでしょう。

具体的には、貴金属店や金属商社では金地金という金塊や金の延べ板を購入できますし、また金貨という形でも現物の金を保有することができます。

金の現物と言うのは取引市場が存在しており、保有する金地金はその時の取引価格において売却することが可能です。ただし、ここで考えるリスク回避のための保有は金の価値に焦点を当てたものではなく、物としての金、つまり物々交換の対象となるものとしての価値に焦点を当てていますので、金の取引価格でその価値を考えるのではなく、**リスク資産としての物としての保有にこだわる**ことが必要ではないかと考えます。

以上、経済環境が変化したときのリスク回避と考えられる資産を考えてみました。**リスクを分散する**という考えは、私たちが日常取り組む投資においても1つの大切な考えですので、あながち的外れではないと思います。

その規模や期間は、それぞれの投資家の資産規模に応じて異なると思いますので、ご自身の資産規模に応じて、また考えに応じて検討してみてください。

## 4. 再び2008年のような世界金融不安が起こる

金融・投資市場に参加するものにとって2008年というのは、かつてない激動の1年でした。各市場が一斉に一方向に動き、しかもその変動幅は歴史的に例を見ない規模になり多くの投資家が資金を失いました。それゆえ、投資家の中には、「**またあのような事が起こったら・・・**」という疑念を拭うことはできません。

しかし、あの瞬間世界で起こったことは、ドル安ではなく**ドル高**でした。それは各市場の動きを見れば分かります。

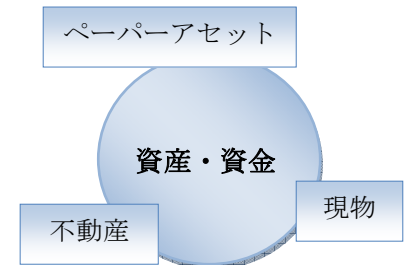






図 4~6 を見ると、2007~2008 年のサブプライム問題からリーマンショックに端を発した世界の金融不安の中で起こった資金の動きは、リスク市場から現金つまり米ドルへの回帰、他国通貨から米ドルへのシフトでした。

このことから、急激な金融不安は米国の債務不履行のようなケースでなければ、一時的に米ドル高、リスク市場からキャッシュポジションへの資金移動が起こることが疑われます。このような前提に立つと、準備するのは「米ドル買い」になります。つまり EUR/USD の売りや GBP/USD、AUD/USD の売り等です。

同じ発想で、商品市場の売りや株式および株式指数先物等の売りの検討も準備できます。

以上、私が考える「ドルが紙くずになるケース」について考えてみました。冒頭でも書いたように、自分自身の不安や恐怖がどのケースに当たるのかを明確にできれば、それに応じて準備や対処が始まりますので、自ずと不安や恐怖は消えて行くでしょう。

一方で、上記 2 や 3 のケースのように、個人的なレベルではコントロールできない、また何が起こるか想像もつかないようなケースも確かにあります。そしてこのようなケースでは、どんなに思いを巡らせても、詳細に情報を調べ誰にも知られていないような秘密の情報を手に入れたとしても不安や恐怖が消えないこともあります。

一個人にとってコントロールできない、また想像もできないケースは確かに存在します。それほどこまで行っても晴れるものではありません。

それは、アメリカ経済や世界経済の問題ではなく、「**自分自身の中に恐怖がある**」という自己の内面の問題になります。そのような場合には、「**投資を行なわない**」あるいは「**何に恐怖を感じているのかを見つめ、解消する**」といったように別のアプローチが必要です。

確かにインターネットや書籍には、さも世界や米国の経済が大きな問題を抱えたまま、今にもその問題が噴出し私たちの暮らしを破壊するように書いている情報もありますが、それを自分の問題と見るのか、それともそこには問題はないと見るかはあなた自身の選択にかかっています。

そのことに気づいていただければ、一段違う意味でそれらの問題に対処することが可能になります。

「**ドルが紙くずになったら・・・**」

もしこの問題に何かを感じるのであれば、**そこに何を感じているのか、それはなぜかを明確にしてみてください**。解決はそこから始まります。そして、それは可能です。

最後にもう1つ、何かに偏り過ぎることは時に思わぬ落とし穴を作ることがあります。「ドルが紙くずになったら・・・」とただただ不安を抱くのではなく、**ドルが紙くずになった時に対して準備をし、同時にドルが暴騰した時に対する準備も忘れないでください**。

このレポートが、何かのきっかけになれば嬉しく思います。  
ここまでお読みいただき、ありがとうございました。

松下 誠

参考チャート : Edge Trader <http://www.nogawa-trade.jp/et/>

Copyright 2010 Makoto Matsushita & Direct Publishing, Inc. Allrights Reserved.